

インターバンクの声（2015年4月1日）

相場が動くきっかけになる可能性もあり、米国12主要都市の各地区連銀総裁による講演での発言はどうしても気になるところだ。ただ、ここ数日は先週初から連日複数の講演が続いていた上に、イエレン議長の講演も済んでしまったことで、市場の関心は日々の経済指標、特に週末の米雇用統計に集まり始めていた。それでも、やはり今年の連邦公開市場委員会（FOMC）の投票権を持つ地区連銀総裁の発言には、それなりに影響力があるようだ。昨日に講演を行ったラッカー・リッチモンド連銀総裁は、強いシナリオとなった場合には6月利上げの公算が高く、最近の弱い指標は天候が要因となっている可能性があるとして述べた。勿論、ラッカー総裁の発言だけが影響したわけではないだろうが、原油相場下落や前日の大幅な上昇後の利益確定による売りに四半期末要因が重なったこともあり、ダウは前日から200ドル以上下がる反応となった。為替相場への直接的な影響は余り見られなかったが、米国の早期利上げ観測がさらに高まり、雇用統計結果が依然堅調な結果にでもなれば、暫く躊躇っていたドル買いが動き始めるのかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。